

江戸名所図會

十六

和書門			
二	三	二	二
四	七	七	七
一	八	八	八
冊	架	函	號

内閣文庫			
二	二	二	和
六	三	七	書
七	七	一	
函	一	八	
一	冊	號	類
五			
架			

内閣文庫	
番號	和 22718
冊數	20 (16)
函號	267 81

内一〇九三六  
共廿



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak 2007 TM: Kodak



名所圖會卷之六

關陽之部目錄

金龍山淨土寺

西宮松原

十二月十八日

法明神社

徳園社

手向野舊址

日輪寺

海禪寺

祝言寺

御形觀音堂

極寺

浪杏八幡宮

西福寺

東本願寺

天嶽院

清水觀世音

長遠寺

日蓮大士

三治神社

大慈八幡宮

第六天神社

淨念寺

報恩寺

報恩院

上文太子堂

幡隨意院

法新禪社

關魔堂

香越里

東漸寺

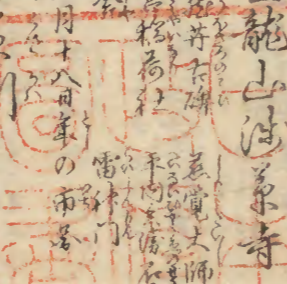
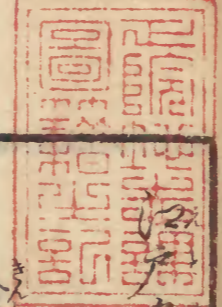
誓願寺

東光院

除厄太子堂

信州善光寺

丙一〇九〇五號



永昌寺

東叡山山下の寺

養玉院

金枝安樂寺

不動堂法印の松

木戸孝範第宅田跡

渡馬の塚

熊野権現社

除木平陀如來

白旗塚

石濱

牛頭天王洞

廣徳寺

六条天神社

若菜寺圓魔堂

根卷圓光寺

正燈寺

小塚原天王社

子匠大橋

富士法間宮

西新井法大師堂

梅田明王院

石濱城跡

天満宮

下谷稻荷社

常樂院

入谷庚申堂

兼輪西光寺

万里法寓居之地

飛鳥の林社

光榮池

法間の淵

大師加持水

天満宮 不動堂

橋場

法法稻荷社

下谷岡

上野坂本口圖

小野照彦神社

時多岩

子束郷

山谷熱田神社

誓願寺

沼田延命寺

十二天森

六月村八幡宮

誓大神社

新日神の文

思ひ川

隅田川渡

總泉寺

鏡ヶ池

東野先生墓

長昌寺

山谷堀今戸橋の嵩

聖天宮

石濱古戰場

袈裟掛松

法源寺

今戸八幡宮

日本堤

正平合戦之圖

浅茅ヶ原

采女塚

碓氷鷲の峯

慶養寺

新吉原町

砂尾不動堂

妙無神社

玉姫稲荷神社

今戸陶慈師

志去山





東國記行  
 角田川もええけり  
 表のやうなる積ありとい  
 又東順禮親王浅草ありとい  
 不とらんまよりの結核  
 とていふといひ

秋も本未れ花も  
 あはれこの  
 露もつれとや  
 角田川くれ

宗牧

田圃雜記  
 浅草といつて不  
 とすなりといふ  
 庭小孩れりまむを  
 といふ

冬れ色ハ  
 まよつたまの  
 うつ枯り  
 庭の家をも  
 のこも  
 庭くれ

道真准后



金龍山  
 浅草寺

全圖  
 共五枚



五光集

名の

松

野

今

茶

茶

其角

其二

二十軒茶屋の  
 寺仙茶屋とも  
 以前の昔の茶の  
 茶店より御福の  
 茶ののれとして茶  
 防のへをひかること  
 今其の茶の負  
 二十余軒ある所よ  
 借是とよしと  
 二十軒茶屋と  
 いまの  
 せり



之大世出

堂ん七福

んけお









法威能救衆生憂  
 小白華山彼岸舟  
 若把馬床令渡水  
 應同海底有混牛  
 羅山子



其  
 五

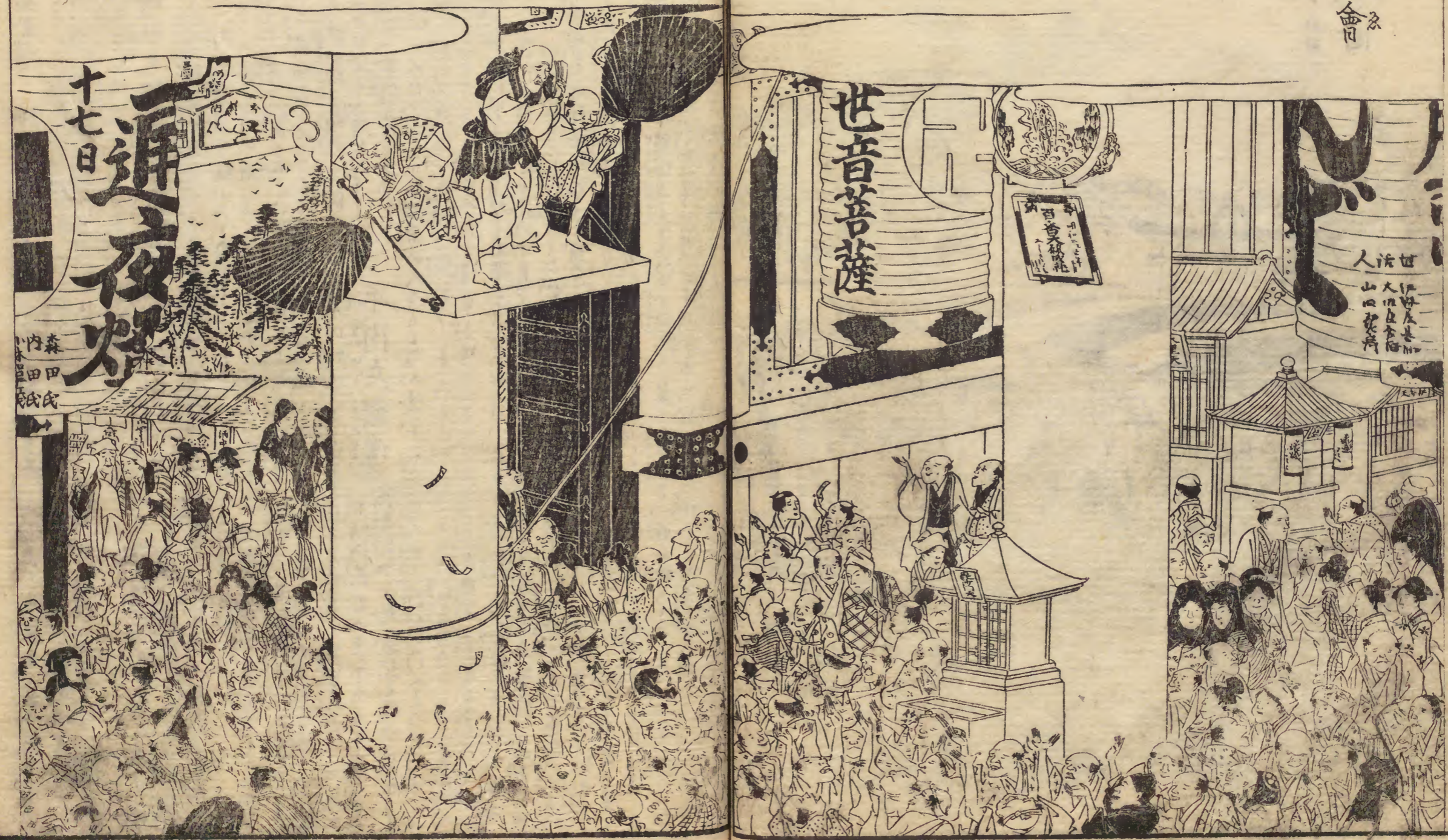




六月十五日  
祭禮之圖



第  
分  
會



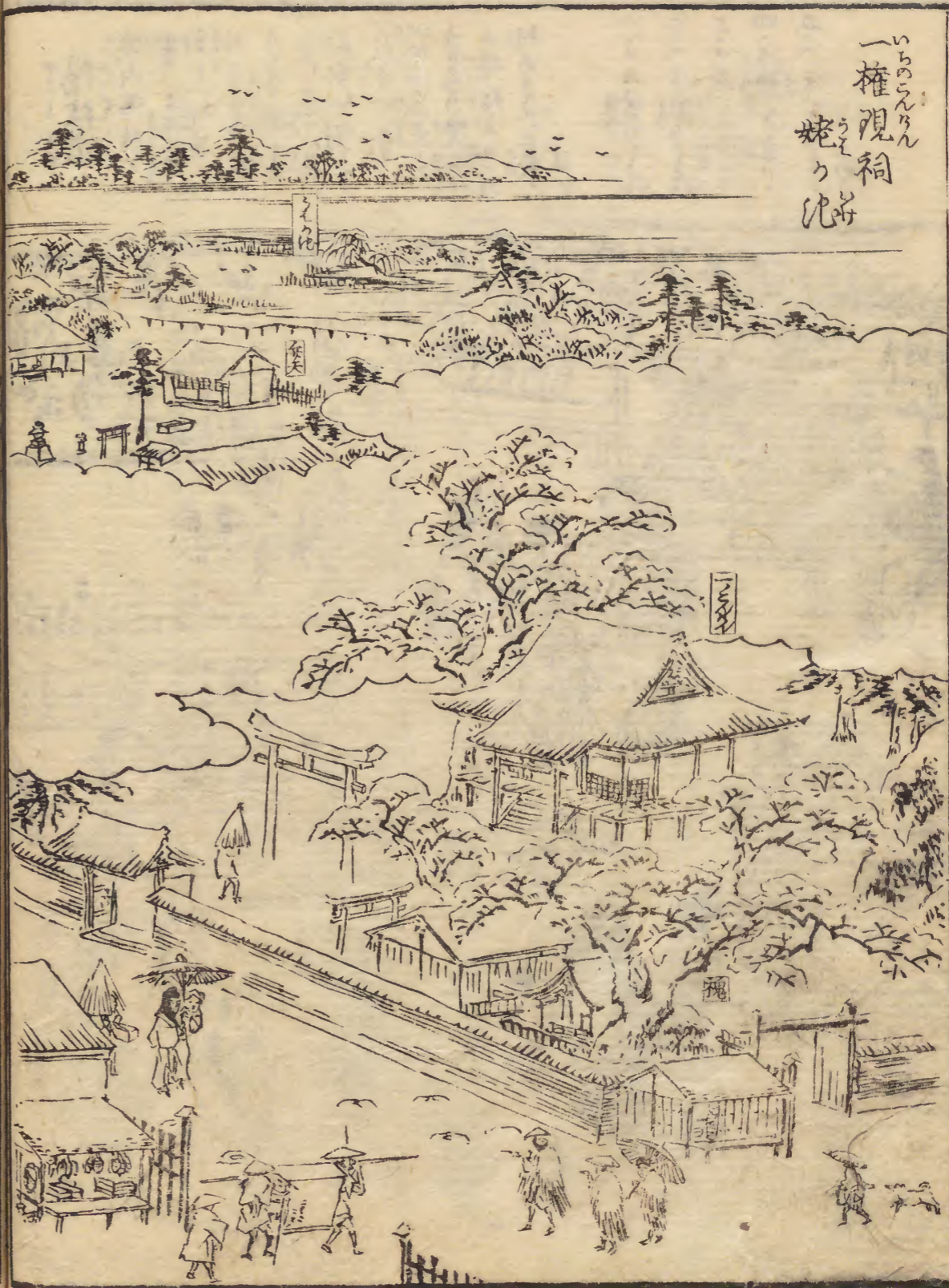








一権現祠  
姥り沈み



さて見むと思ひある時道ひくありと生けて田の如く出立て彼石小  
 外りのつもの如くむ得て頭を打らるたり急き物とも取むとく  
 引かるとなる衣をあげて見む人獨りややくとひてよとく  
 それ我娘なりむとられまといてたさすも云たりそれ夫  
 より彼父母をさす小發ふて度くの悪業をも懺悔懺悔して人々の  
 娘の菩提をも深くとめひまひと語りてと語りて古老の命は  
 へ

ほろろのつもの世もさる石枕ささるおかりの思ちるらめ

當所の寺号淺草寺といふ十一面觀音小してまゝをまゝひはこ  
 靈佛めてまゝとちむ

一権現社 因呀頭松院の境内小あり土倍あかむ堂と云往古當寺奉る觀世音出現の  
 草刈の草蓐をとりつく柱といふの草堂と建て彼靈像と安垂し奉る一庇跡  
 ちり崩れあり堂と唱へてと後世修て阿加牟堂と  
 たり傍小觀を影向の槐あり  
 六地藏石燈籠 雷神門の外荒川戸町の入口南小あり崩れ去人此野の岸とて  
 何岸とつりこの池の往古より眞列海道の馬次ありとを其頃へんかんの





馬市  
萩の内と  
いふよ  
毎朝  
十二月  
南部  
二部  
買  
賣  
出  
こ

棧鋪

棧鋪

山城籠屋町中... 三月十八日の市... 坊舎三十余宇... 専堂坊... 雷神... 額... 金龍山... 曼珠院二品良尚親王真蹟

本尊縁起曰人皇三十四代推古天皇の御宇土師臣中知といふ人故ありて此地小流浪... 家臣檜熊濱成武成と云二人の兄弟附添て王從三人... 人慎小漁獵を産業とて小年月を送り...

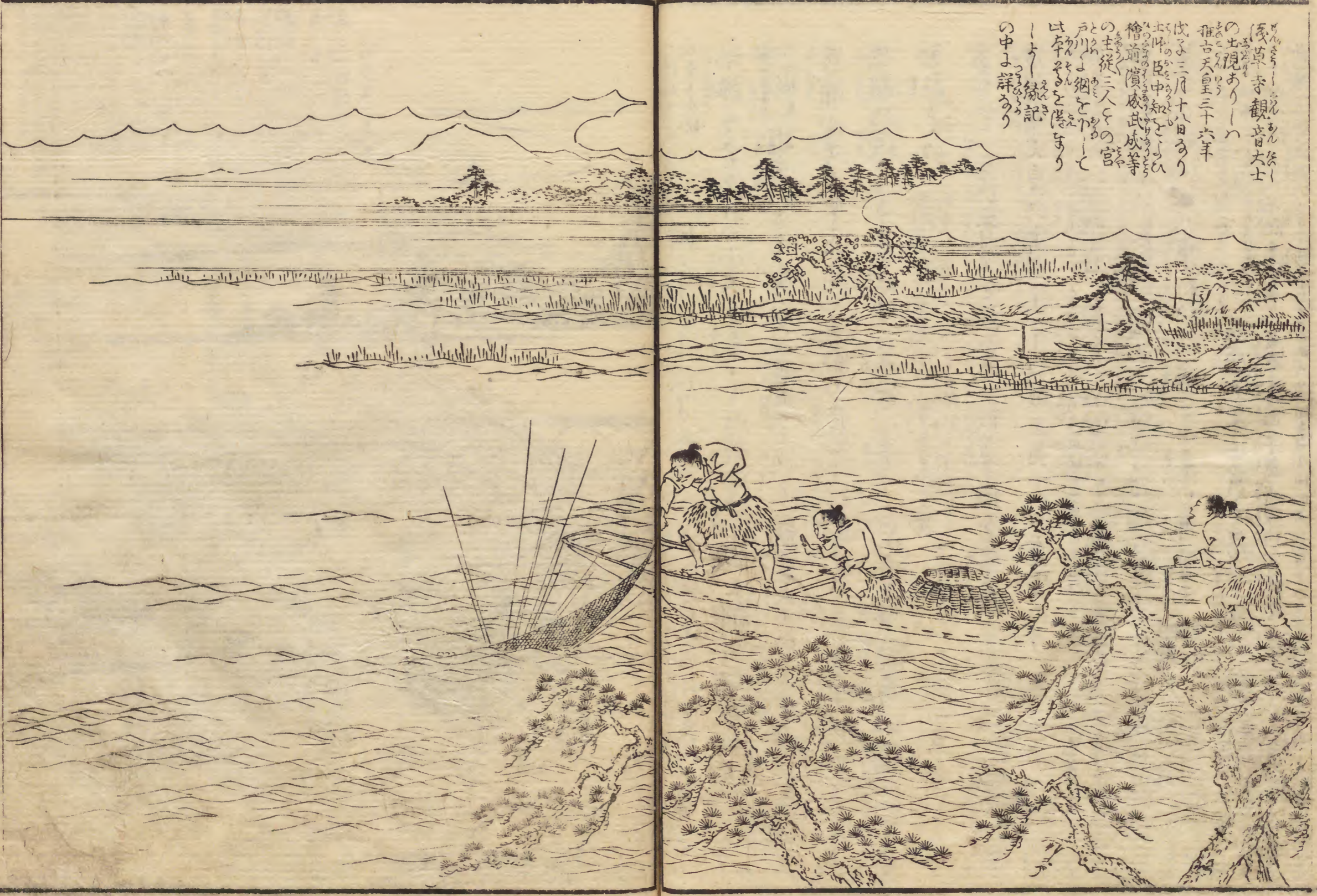
同二十六年戊子三月十八日の朝聖落小雲消て若君慎小風静... 遊真... 異浦小至りてもいよく志かり依て主從終る是を奉持... 機縁の淺く... 多たて一字の香堂を經營り彼尊像を安座し奉る...

後舒明天皇の御宇十年戊戌正月十八日靈告ありて田祿す... 年乙己勝海上人東行の次適と小未て再營す... 天慶五年壬寅安房守平公雅... 武藏下野兩國の守小住とあり又同書小同四年七月十六日...

則當寺の元山と稱す... 勝海上人奉る... 天慶二年三月廿九日... 推古天皇御宇...

武藏下野兩國の守小住とあり又同書小同四年七月十六日... 推古天皇御宇...

後草寺観音大士の出現あり一ハ  
推古天皇三十六年  
戊子三月十八日あり  
上野臣中知とよひ  
檜前濱成武成等  
の主従三人の宮  
戸川に網を掛け  
は奉るるを傳はり  
しよ一縁記  
の中より詳あり





兩度の戦い小軍功ありと云々武藏守小任りし同五年の某任限満すて重病小なりて來て依りて推  
と云國の守小任りしとありと云々雅の常陸大守國香の弟上總か良兼の長男とて平符門を諫る  
マ一六郎と連  
當寺小諸當國の大守たりてむを新求すりてとて遷任  
り見たり

此國の守とあると云々の靈驗の空のけりけるをゆゑ奉て奉堂より以宝塔幢樓  
樓門徑藏法華常行の所の社壇の社壇と造立し田園數百町を附して長龍  
善の曉を期す  
又長久二年辛巳十二月廿六日比震動し佛客顛倒  
暹小後白河院兼督

三年己未十二月に日堂塔田録す其時奉尊火中と出く坤の榎の梢より  
ぬの美徳二年戊寅に月藤原成實四箇年の間當國と拜任し猶重任の望  
ありて新願し靈驗あり依代々守龍の田畑を尋く元の如く皆歸入し奉

堂塔と彼管し彼坤の榎を以新小觀音の像を彫刻して納らる  
其後左馬頭源義朝當寺へ奉請ありて  
奉奉行藤田多休政情と書かたりり以東順れ記小康法年中義物當寺觀音の傍とありしと云々  
六比花の石燈籠の路小文安二年丙寅とありて藤田兵衛の建するなりと云々  
又仁安三年戊子用舜法印大要小同心

佛閣と彼管す法兼四年庚子十月十七日  
縁起小八月十七日とありて  
縁起小八月十七日とありて  
縁起小八月十七日とありて

田園若干を寄附し是平家追討の新願小依り承久三年辛巳  
禪尼政子二品及相加武加兩刺史致信し願書を捧け白檀の大悲の  
像一軀と白糸の綾羅の帳一もれ信濃布千端を寄附ありし伏見院

御宇正應二年己丑十月廿一日大捕聖と云々汝門其頃堂宇の破壊を歎  
方小勸進して正安二年庚子三月十八日後管落成す其後建武年中將軍  
尊氏鎮西發向の折りて夢想小依り當寺觀音の願書をこめらる同觀音

三年壬辰 閏二月廿日 武藏野合戦も兼て勝  
利ありしを新願ありて合戦の後美田を寄らる  
武藏野合戦も兼て勝

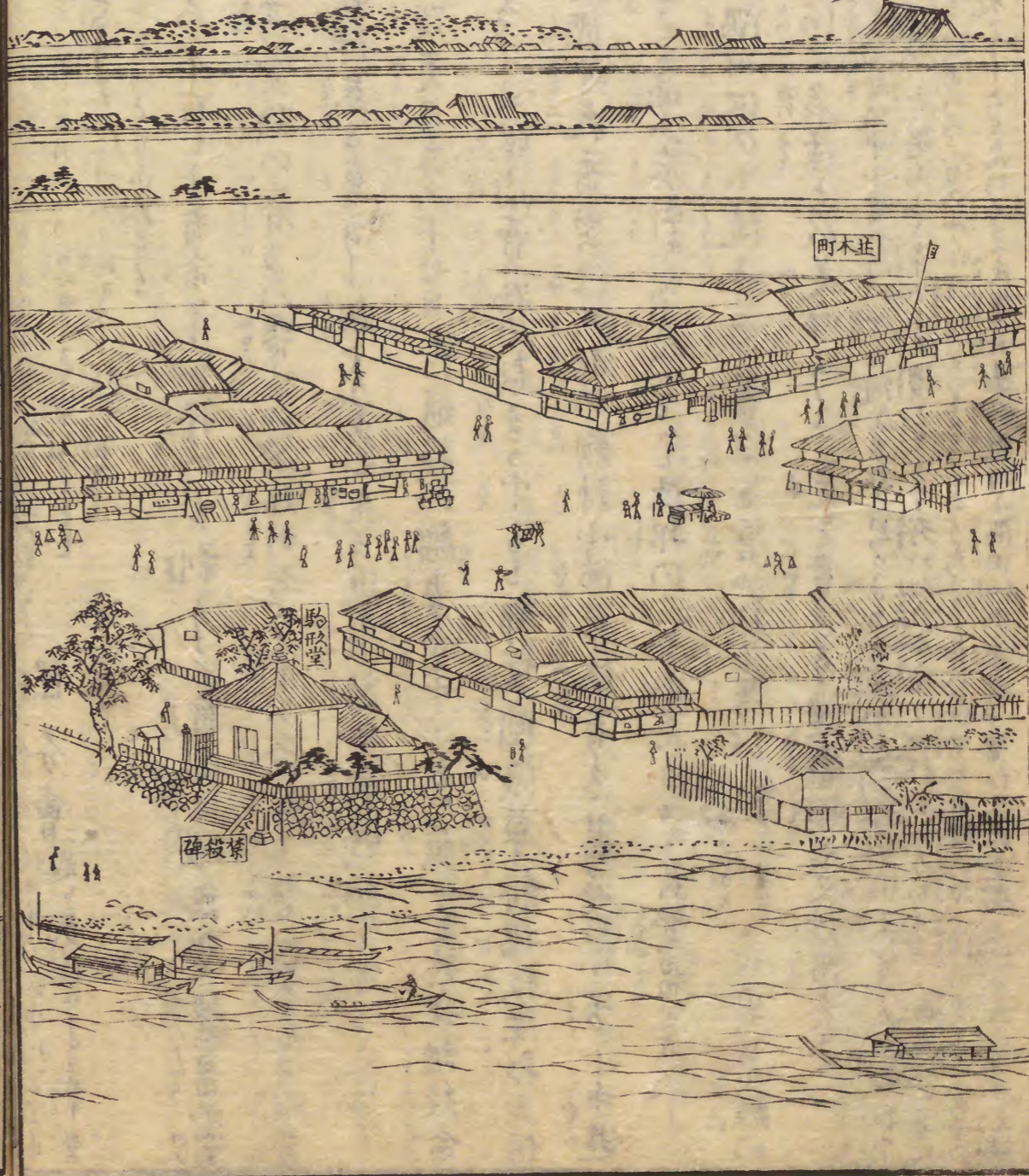
上す其頃相加小田原の城主北条氏綱當國を領し其の破壊の諸堂再  
興ありて大伽藍と

天文八年己亥五月十八日當寺奉加帳小島津長徳軒大道寺盛  
富松田盛秀等の名を住し是奉文の意小合り又知是軒

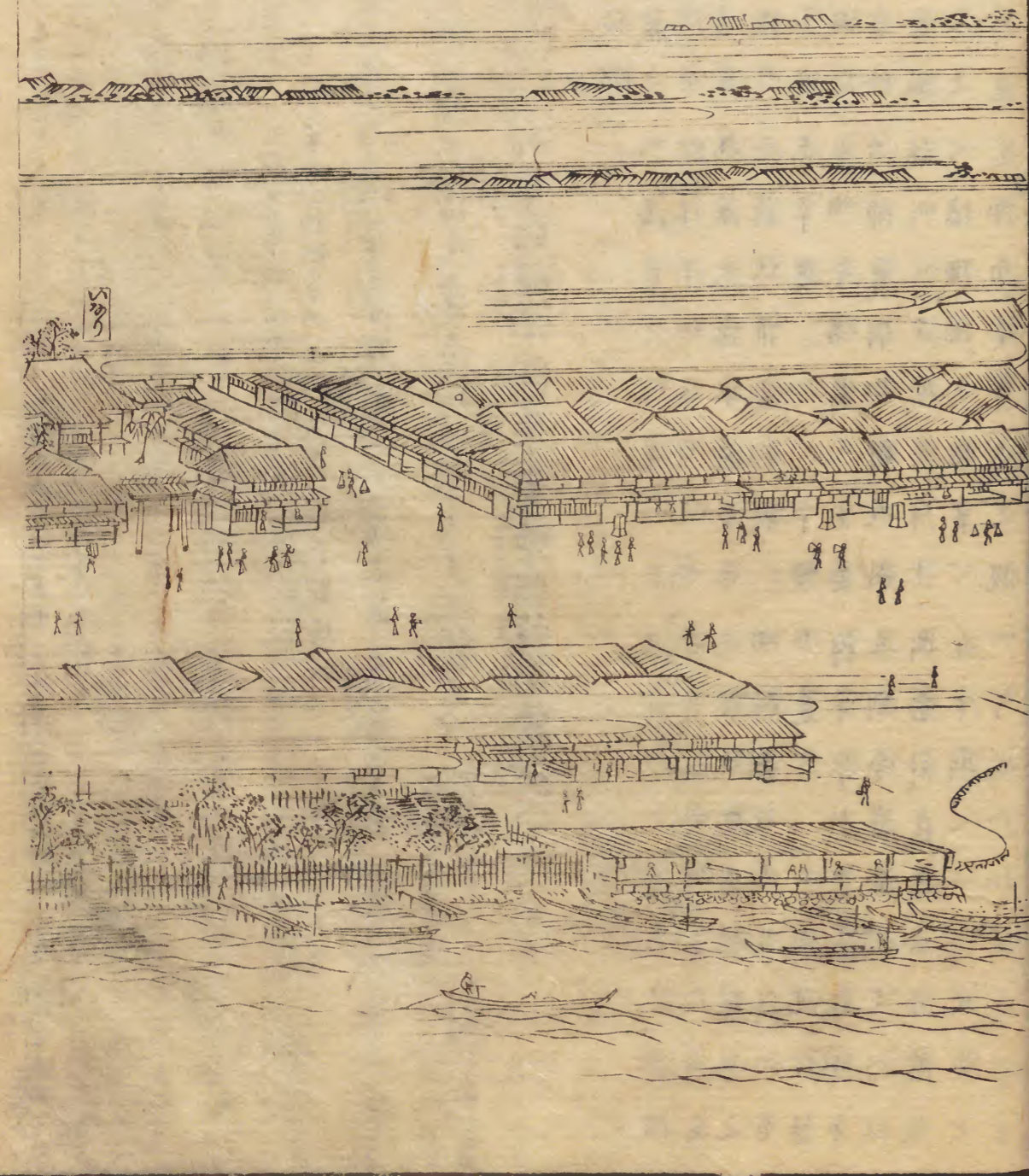




駒秋堂  
清水稻荷



此碑  
其角  
あまの  
まね  
つね





すとのれハ元禄の頃まゝハ其清水泉然りとあり一ハ今此のまゝなり後國院ハ  
行道所茶畑と稱する此の管命より流せしつる清水ありてをあるくは  
又江戸名所記の説

小弘法大師東國遊化の御武藏國まゝひとりの小坂小  
東藏山西の林苑清水門  
のほは是るなりといふ

ぬふ頃老女の水桶を載て行り大師彼の水を乞たまふ時老女の云く此辺に  
水ぬく遠く是を汲由まゝなりこれハ大師憐を獨鉢を以て加持たまひる

其所小清泉涌出と其傍小當社と勧請しあひらるといふ

諏訪明神社 同所該所小あり祭神ハ信苧の飯所小同く健御名方命

るま當社の権連ハ至て久遠りて未由等詳あり

榎寺 同所黒船町小あり浄土宗りと増上寺小屬す此中山正覺寺と號す

奉尊阿弥陀如来ハ惠心僧都の作りて寔山ハ觀智國師あり往古當寺小

名ある大本の榎りり一故小号とせりゆといふ

石清水正八幡宮 大倉前小あり元禄五年 台命小仍て石清水正八幡宮を

勧請せり 昔ハ文殊院の八幡と稱し高野山行人流の僧住職 別當と大護院と号し雄

徳山と云寔山幸沼法印あり護摩堂の本まゝハ五大明王りと運慶の作あり

弘法大師東國遊化の  
とせり武藏のまゝ  
ありひとりの小坂小  
のまゝあり一老女  
のまゝ水を運あり  
大師彼の水を乞た  
まふ時老女の云く  
此辺に水ぬく遠く  
是を汲由まゝなり  
これハ大師憐を  
獨鉢を以て加持  
たまひるといふ



弘法大師東國遊化の  
とせり武藏のまゝ  
ありひとりの小坂小  
のまゝあり一老女  
のまゝ水を運あり  
大師彼の水を乞た  
まふ時老女の云く  
此辺に水ぬく遠く  
是を汲由まゝなり  
これハ大師憐を  
獨鉢を以て加持  
たまひるといふ

三島明神社  
 諏訪明神社



圖 庵堂 八幡宮より南の方臥三丁を隔つ称光山長延寺と号し奉る庵羅王

ハ運慶の作りし其丈壹丈六尺あり額小庵王殿と云るハ延享年中未聘韓

人の筆なり當寺ハ慈覺大師草創ありし時昔ハ下野國小ありしを文永年

中此地ハ遷すとて或説ハ昔ハ震雲小ありしを國初ノ頃ハ後撰イマノ地ハひるるとり

諸群集す 毎歳正月七月十六日夫也

棄衣婆像 運慶の作りし奉る 化馬地藏尊 徳太子の作昔ハ紀ノ那智山小ありしと

花山觀世音 花山院深く觀音菩薩と云る信ハ此ハ觀音ノ普門品大悲

佛眼上人をして佛眼供養せし法皇と云る觀音の聖區三十三所觀音禮ハ煩禮ありと云

祇園社 同所圖庵堂の南小隣る當社牛頭天王ハ天曆年中の鎮座ありと云

大倉前の總鎮守小一別當を大田寺と号し

十王堂 境内小あり慶長十八年又寛文御建ありしと云中その比藏菩薩ありと云右小冥府十五

銀杏八幡宮 同所福井町あり傳へ云當社の永美六年源頼義朝臣同



大倉  
御入  
蔵  
池  
山



正覺寺  
一ノ樞寺  
八幡宮

1024511

御厩河岸渡

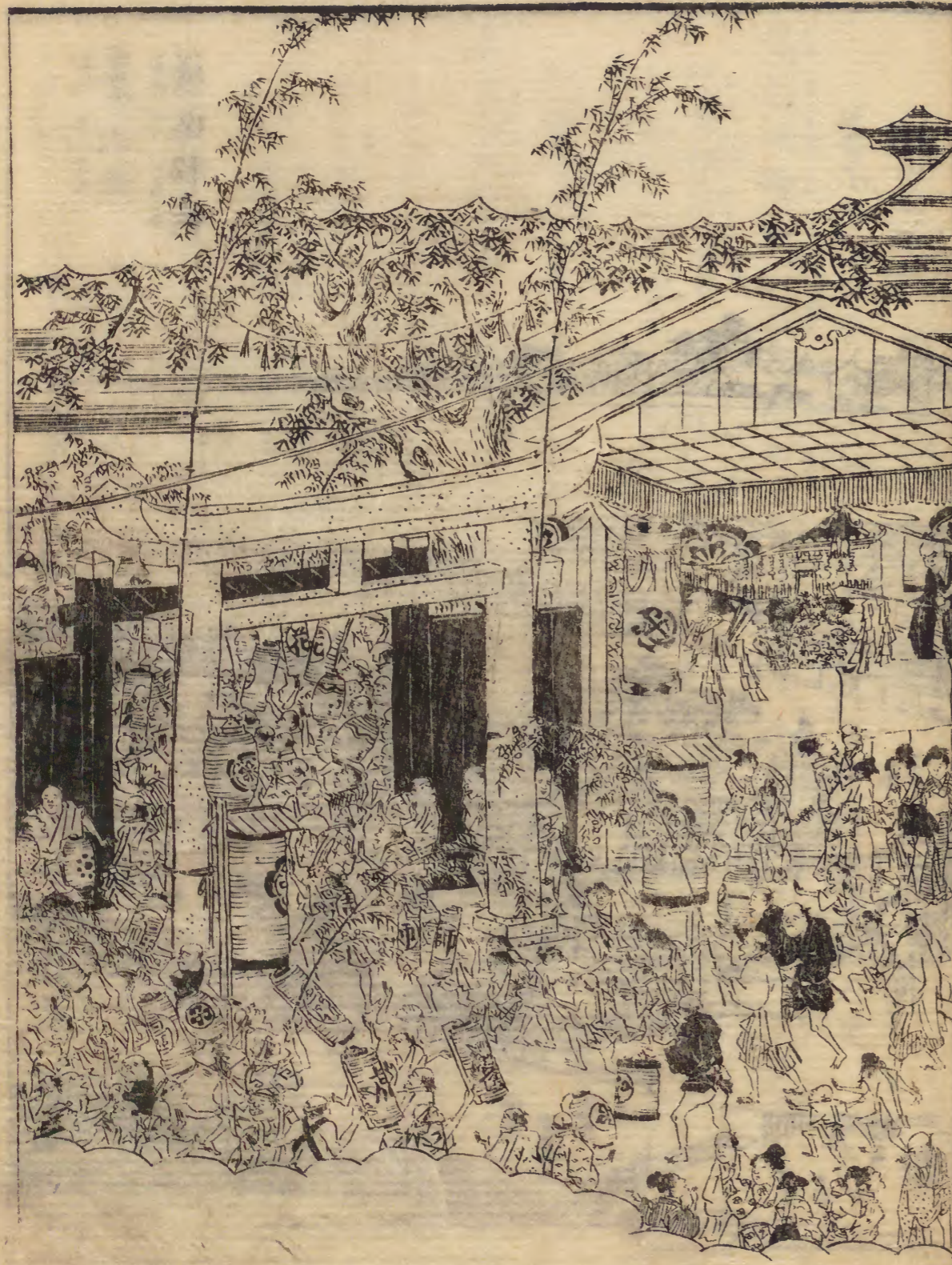


義家朝臣奥加下向の時と小至りたす小川上より銀杏木の流と来る  
 あり則義家公手はくく地はけ一誓言て回朝敵退治勝利の此樹すまふ  
 枝葉と常へとあり遂に其軍勝利ありて凱陣の時々々ひとまひりぬ  
 枝葉栄るとハ幡宮を勧請しぬいと其昔ハ幡塚と唱たりとるん神木  
 の銀杏樹の延享二年の秋暴風よ吹折て今にわらふ其枯株を存せり  
 第六天神社 浅草橋の外あり昔ハ大倉前森田町なり一或る保に年火  
 災の後今の地に移る祭神ハ面足尊根尊なり 天徳元代この地ハ一  
 藤塚稻荷社 當化の田社なり 社古はあや草の里と云ふハ  
 作一映入道して社の側ハ庵室と結ひて住せ別當玉院ハ主齋孫ありと云り  
 多越里 多越明神の辺より大倉家の辺までといり小倉家分限帳ハ富永  
 江戸多越村の内と領する一記せり  
 寛惠北園紀行ハ文明十八年十二月ハ三日隅田川の辺を感といへる海村ハ  
 多越村と云ふハ一ハ同村ハありぬる金老ハ多越村ハ一ハ同村ハありぬる  
 寛惠 多越村の内に領する一記せり



大倉前  
 岡魔堂  
 牛頭天王  
 十王堂





各々えのさくらんて  
 祇園と會公徐園子  
 毎家六月八日の曉  
 是と彼めを氏子の  
 祭とよくさるる  
 製し悪く徐の枝  
 小ほけく是を室前  
 了供の時諸人  
 争ひられをとり得え  
 奈内は収め祭  
 疫災と除く  
 の守護

牛頭天王御祭禮

氏子中



第六天  
篠塚稻荷



田圃雜記 鳥越の里といふ所へ行きて

暮小なりやうりの川くといとく日小あれ寝小行鳥越乃里 道貞准后

鳥越明神社 元鳥越所あり此邊の産土神とす奈神日本武尊相殿天

兒屋根命あり 昔の第六天神熱田明神を合祀せし鳥越三所内社とありけり正保二年此地

より熱田の三谷の地いづつ一第の地を以て社とす其の地を以て社とす其の地を以て社とす

未由等詳ありすとすり奈禮ハ隔年六月九日ありと

東光山西福寺 良雲院と号し 良雲院殿 御尊殿を崇め奉りて鳥越明神

より三町をく東の方小あり 江戸浄宗四寺の隨一ありて奉尊阿弥陀如

来ハ安阿弥の作あり 三の川より 死山と真蓮社貞徳言傳上人と号す 元和八

北七田小 遠の刃屏り測戦死の迷魂得脱の師あり 迷魂得脱の功ハ武文の戦切

小等一々其功を永世傳へんと 神祖 松平の御稱号山号

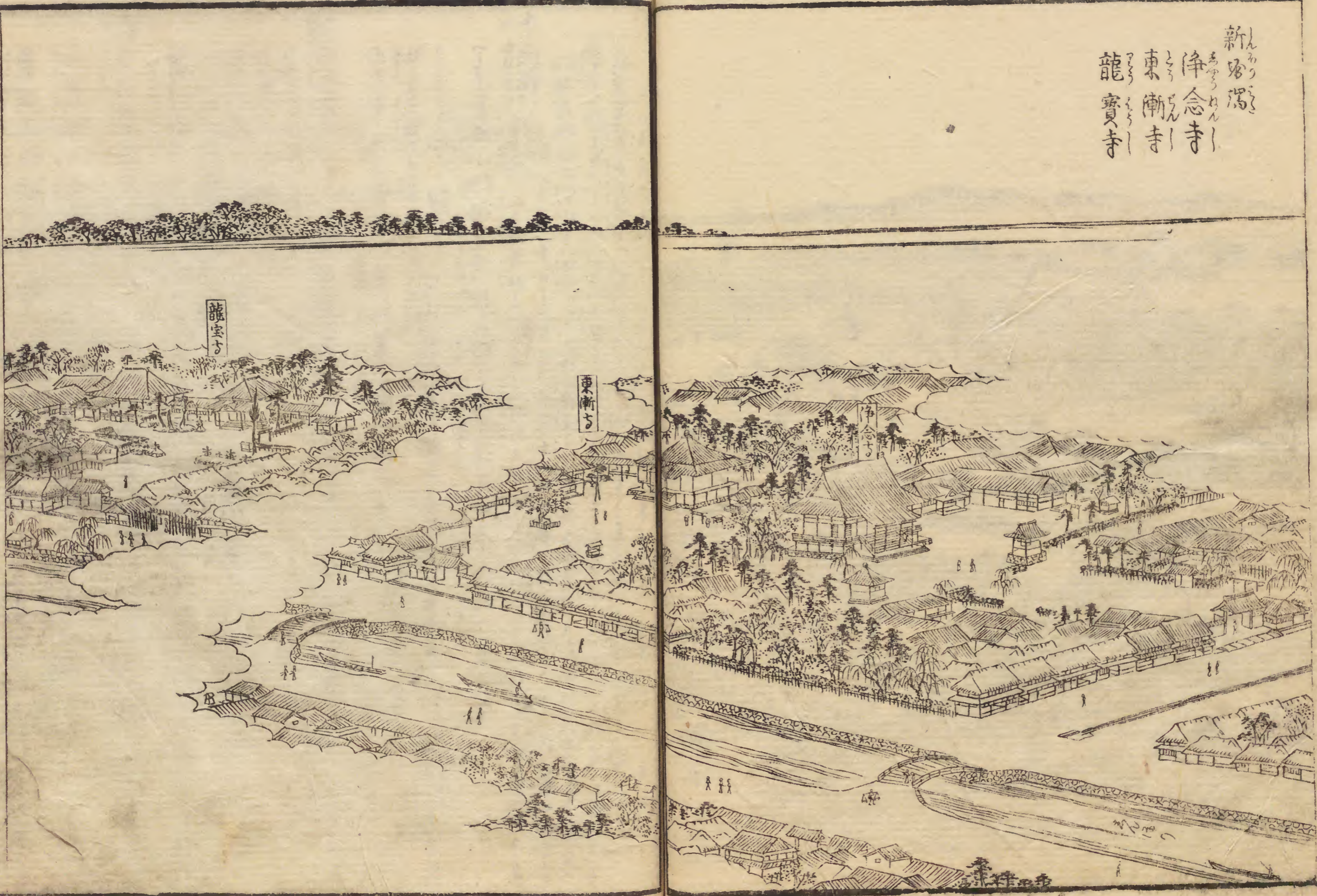
等とあり往古三の川ありと慶長の頃 台命よ依て此の國後河臺

小稲され又寛永十五年今の所よて地をぬか一其中法幢を立檀林小准

西福寺  
三少一



新  
浄念寺  
東漸寺  
龍寶寺



東照大権現宮神影 神祖并よ 白徳公及び 良雲尼公の御影も亦附せらる

江島辨財大祠 辨財寺の傍にあり 辨財の画像ありて弘法大師の筆ありといひり 辨財寺の傍にあり

化用山常照院浄念寺 因所西福寺の北の通にあり 浄土宗 元山の性空上人

露休和尚よりと永禄年中の草創とを奉る 阿弥陀如来の慈覚大師の他

寛永十二年駿河臺より今の地に移る 大師の像乃

正保山東漸寺 段階王院と号す 天台宗よりと東叡山小屬を浄念寺の北小

あり奉尊薬師如来の行基大師の作あり 書寫性空上人常小護持の靈像ありて脇士

秘に寄願あり者あり 元山の慈覚大師よりと田道権再興と始御城内よりあ

てと後小神田芝崎村に移り又正保年中今の地へうつり

手向野 寛文の比戸田茂睡といひり 此野に草庵をむすいあらうと住て一子伊右衛門あり

記に其地八田不全移るの境内にて茂睡史歸遊一子伊右衛門ありとあり 手向野と彫て和界と

或人云は茂睡史歸遊一子伊右衛門ありとあり 手向野と彫て和界と

風の音を若乃ありとあり 手向野と彫て和界と

東本願寺

上月廿二日より

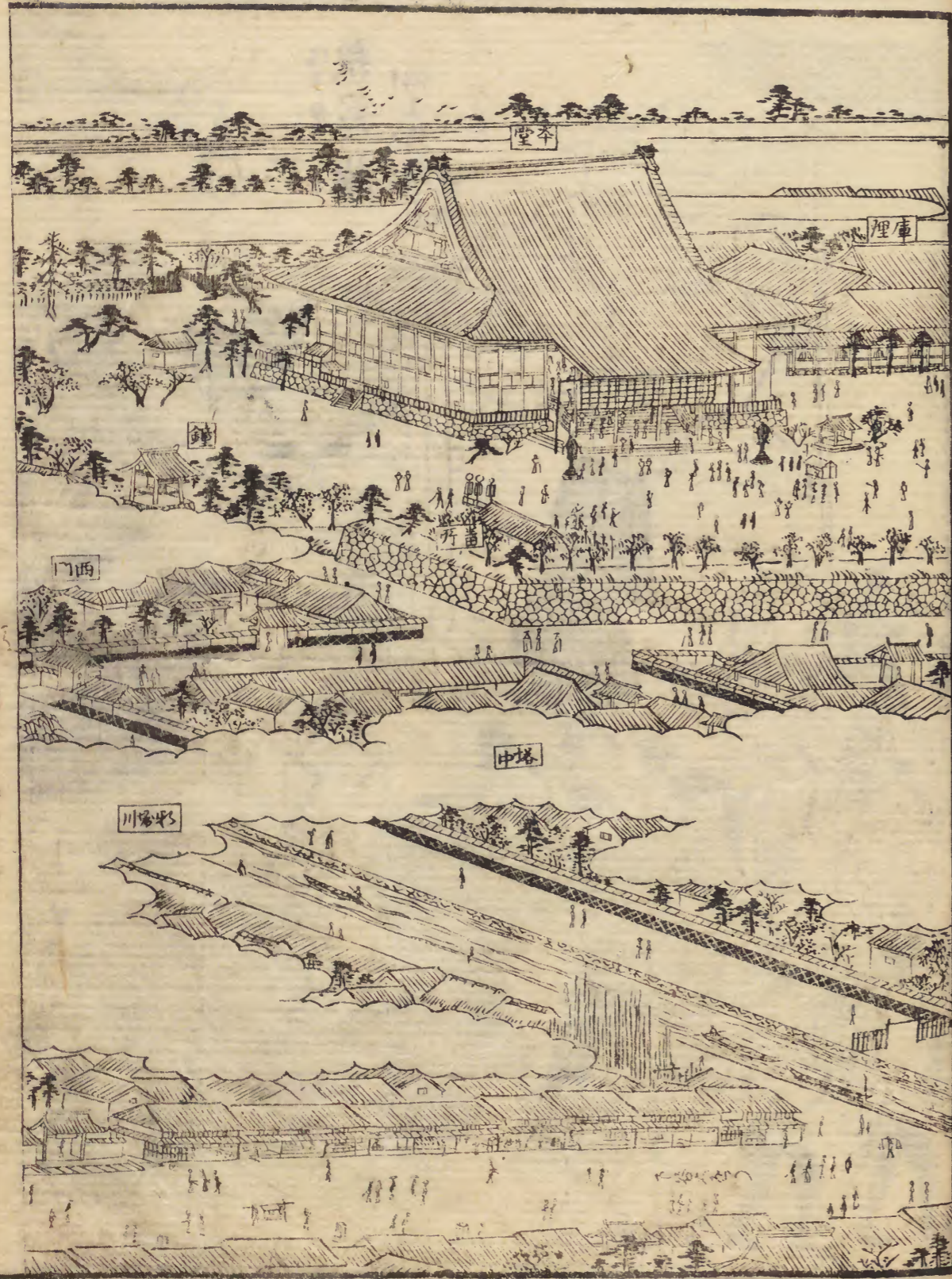
因て廿七日迄

宗山忌とて

徒の道俗

群衆を





其二





西山宗園

霜月

お

そーや

りせろ

乎等



報恩講  
俗御講と

東奉願寺

新堀端大通小あり其先奉願寺の住

職たるを豊臣家のものとして頼如上人の舎を奉願寺の跡小定め

らと教如上人を以て故に退隱せしめ裏屋舗小並れしを

神祖竟尔 召出され其祖上人の真影を御寄附ありて六条室町の末を

新に御堂屋舗成り賜る夫より後東西とわかる

其後此寺未建交あり夜中 巡則神田より寺地を領す

其地今日幸橋の外加賀屋敷と唱る所之咽唇の後今の比小移されり

御後館とるる 當寺は朝鮮人未聘の

立花會 毎年七月七日真行と 兵山忌 毎年土月廿二より同廿八日までの間續行法事あり

門徒の貴賤 僧小是を御講と稱す一は報恩講とて小のゆゑ

高龍山報恩寺 謝徳院と号し東奉願寺の東小隣る一向流として宗

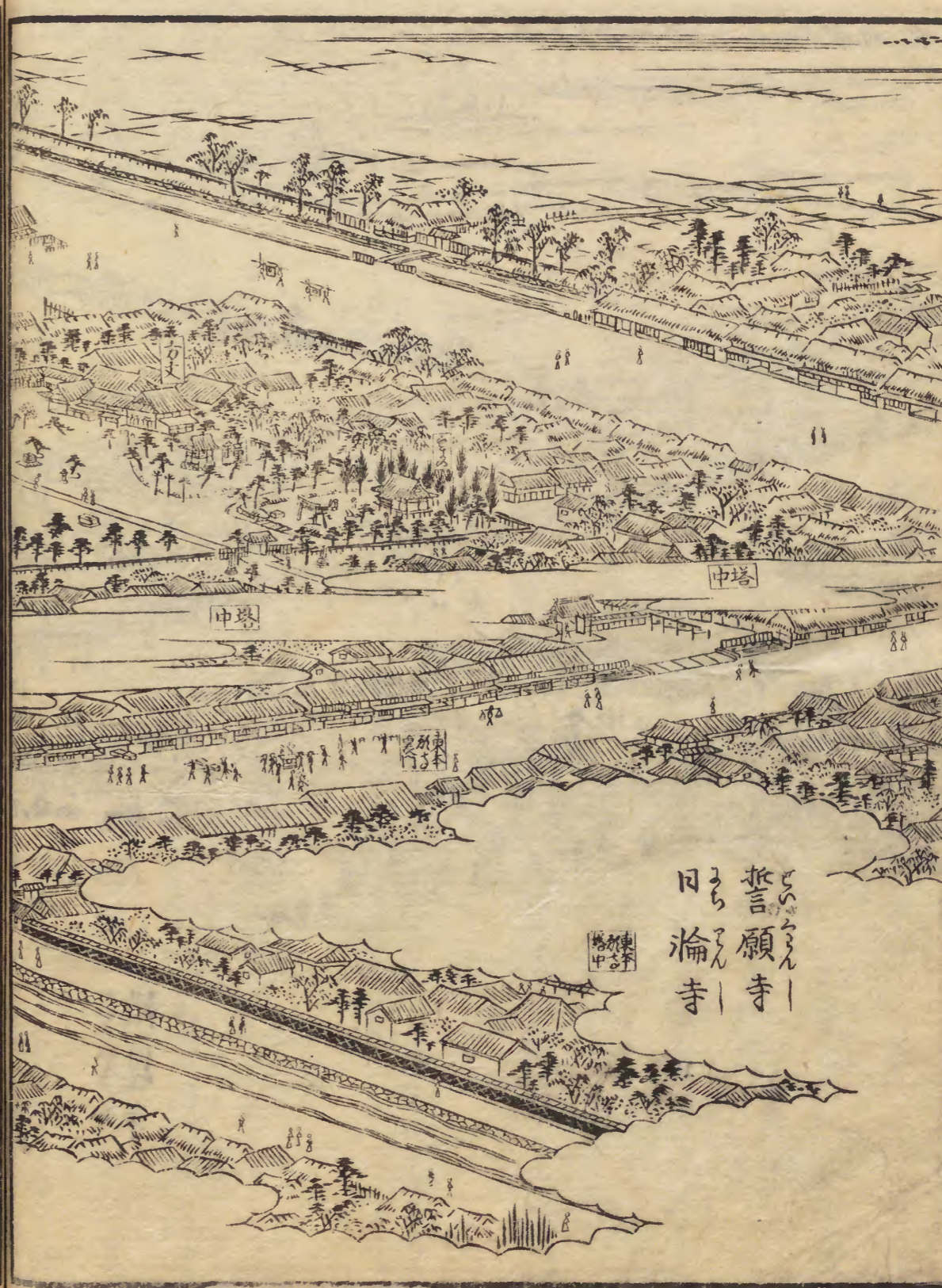
祖上人の遺跡二十四輩所の隨一あり當寺は下總國豊田の左横曾

根に有る數十世後結城の城主七高左衛門晴朝の臣女賀答何某

といふ者の為よ寺領田等を等と押領せしむと終り武刀の移り様



報恩寺



誓願寺  
日輪寺





天嶽院  
禪往院  
東光院  
清水寺  
慈眼院  
聖德寺  
祝言寺



田小ありり後八丁堀に迂り明曆火後今の比小あり  
猶存 宍山性信房俗姓ハ大中臣常列鹿島郡の産之幻名を與田郎といふ  
天性多力勇悍心狼戾うく禮法を去り唯漢獵殺生を事とする之  
俗子悪丑 十八年の春 紀の熊野山へ詣り歸るに洛陽小あり適東山  
吉水よびひく法慈上人依力奉願の責を説めを以頭髪を剃り  
薙て佛門にいんを頼み依り性信と名を授く夫より寫師を隨  
て昼夜側をさしと師充遷の時も陪從して凡二十五を経り建保二  
年師下總に往り大に群生を化せ同國横曾根のや朽敗の古刹あり  
性信をして住し其後貞永元年竟小師の命小應し彼地を還つる  
大に東冥を化度りんと念佛門を弘通する小道俗元満り場小溢  
るま小をむく古刹再興の志願を企て其地を求りこ小沼あり飯沼  
とつり則是を湮埋して佛閣を營々報恩寺と号す 測當寺の 其の位の  
側り天満神の祠あり同年十一月七日此神老翁と化しとあり

聞法隨喜師弟の約愍懃り 又天福元年正月十日此神何

某の夢小告り曰く是より後永く師資の禮讓として御み洗の鯉魚を  
報恩寺に贈るべしと云 依鯉魚二喉を捕り師小贈り師も又是と謝り乃神  
前小鏡飾二枚と供を 此勝答の例今よみ急慢り毎歳正月十日飯沼天祥の御み洗の  
返礼として鏡飾を供せ則徳信も亦天満宮の神前へ供し 又報恩寺より乃神  
同廿五日初連弁を真行し後鏡飾を寄れ終ふを向例とす 建長二年の頃性信夢るる  
あつて奥州山中は自過去生の枯骨を得り 其の骨を寺に寄せ法徳寺と号す  
畫上り 竟建治元年七月十七日下總よとひく寂を示して化壽八十九 以上宍山行の要  
詳あり 寺寶 親鸞上人壽像 有掃子を持したし珠粉を持壽貞己末年性信坊洛陽小あり  
彫刻あり性信よありと云 五之佛舍利 奉尊名號 眞蹟あり横曾根因光寺の  
六十三歳の影像ありと云り 同九字名號 同宗祖上人 殊教一連 親鸞上人より性信坊の  
去生骨 夢想に依り奥州土陽 教行信證一部六卷 親鸞上人の眞蹟あり貞永元  
年上人歸洛のとき性信坊に附  
屬ありしと云今程 蛇反釵 根の古院に住する頃其の蛇は惡龍すして漸く  
性信是は退るんとするよかゆく空く年月をうり移るよあると蛇斗殺の僧一人未だ山の傍  
熟睡を時よ沁中り惡龍きく僧を呑むと云るる懐中より寸釵花きく彼惡龍を吞く又



傍一宇の草庵を結ひ芝崎道場と号す 其後あるの星霜を

怪く慶長年中神田明神の狭門臺へ迂され當寺の柳原のりとも此を

賜ふ又明曆の頃今の地小うつる 寺傍に往古より由緒ありて今も満年九月十五日

頭よりと誦経念佛等種の後法ありて後神樂を傳へたるを怪例とする 今も其地

光明山天嶽院 遍照寺と号す 日輪寺の西隣る淨社の法窟よりて天正

年中善空上人草創と云山へ圓蓮社満譽上人と号せり 奉尊牛嶋觀世

音菩薩ハ唐佛よりて順徳帝建保年中相列鎌倉鶴岡の社僧良真傍都

入宋の時音王山能仁寺より將末とるる像ありて其後豊右衛門の幕下

津田勝重とつる者此像を感得と息え重伊賀國牛嶋と云ふより頃此

靈像の昔よりて群賊の蜂起を治め武威を國中に振ひぬ依人民伏し

ふ島殿と稱す其後え重當國に越さし頃故ありて當寺より收む則ち

内より島え重の墳墓あり當寺舊ハ浅草橋のちよりありし明曆

回祿の後此地に移る

一心山彌往院 同西隣る捨世寺と号す淨土宗よりて奉る阿弥陀

如來ハ丈六の座像よりて惠心僧都の作るり脇に觀音勢至の二菩薩を

安置す宛山ハ幡蓮社白誓稱往上人 姓ハ飯田氏の野州 當寺昔ハ小田原

よりありし慶長年中當國へ移され湯島に地を賜ふ後復今の地小

引きより捨世一派常行念佛の道場よりて殊勝あり 當寺ハ日光大師

藥王山東光院 同く西隣る鹽王寺と号すと天台よりて東叡山屬寺奉

尊溜瀧光如來の像ハ佛ハ春日の作るり傳云慈覺大師當寺と草創

ありしとを往古ハ顯密二教とも弘めて天台宗一百八箇寺の總奉寺あり

中古本田道灌此靈像を崇敬し以て地の鬼門に置又其後慶長年中日光

御門主一品尊教法親王山門を動寺の松林坊賢海法印より仰て再興也

神祖其時院主と命ありて以て長久の御祈禱よりて正九月小大般若經轉

讀せしめらる 此例今もあつて慶長の頃近ハ常盤橋の北より其後傳へる所ハ其地

持ところの  
 管筈をとろて  
 石上へ投すれ  
 其箭をのれと  
 發一鹿を射し  
 師則是をあら  
 獵人強ひく其  
 ありとを惜り  
 松を穿ち既  
 枯骨を得り  
 信坊歡喜踊  
 竟其地を封  
 の精舎と名  
 号けく法得  
 とのり  
 たり



建長二年の秋  
 性信坊は夢想  
 生の枯骨の不在  
 あり奥州信夫郡  
 土湯山に鹿の骨  
 獵人あり師云く  
 此松下に我過去  
 枯骨あり汝  
 是を捨て  
 得るとへいと  
 獵人云く  
 我業を  
 明日の禪  
 むしとて  
 さふ貴  
 を徳性  
 信坊獵者



大雄山海禪寺 同所新堀の川を隔て西の方よりありありなり流の禪宗

よりして江戸四箇寺の一なり 往古平親王将門總州相馬郡よりありありなり

する所の佛刹ありとされと相門亡るの後年を歴て荒廢よとよみされり

鬼の栖とるりしを慶長の頃覺印和尚再興して寺を以て府陽島の比小

移り其頃 神祖和尚の道徳を尊し一尊教ありとせられり後ハ寺院も輪奐と

して宗流殊々盛なり 明暦回祿の後今の

清水寺觀世音菩薩 海禪寺の向ふ新堀端よりあり昔の浅草橋の内より

ありあり明暦火後今の比よりありあり寺を以て北山清水寺と号と天長年中

慈覺大師ひとりの勝地を求め天台法流の一院を建立ありとせり

一の三禮よりして千手大悲の像を作り奉るとと其昔の佛閣堂を

ありあり魏々たりり二年去年末に皇相を歴より堂塔より破壞と

して文祿年間慶圓法印よりありあり沙門靈光成得て叡山正覺坊の探題

豪盛僧正と相謀て堂宇を修營し昔の佛閣堂を

上宮太子堂 同所下を丁なり坤の方よりあり寺を用明山を徳寺と号す

浄土宗よりして奉尊聖徳太子像の御自作なりとあり

天皇御悩の時太子神明佛陀下祈誓言にたよみ至孝の誠を擡りあり御悩事より

平愈よりとよみと許實の乃より自ら作りてあり御年十六歳の御影像ありとあり

上人念佛弘通の乃此雲像を守り奉るとと冥東より下根根澤より一宮の

精舎を建立とあり 其後亨徳二年忠蓮社に誓言上人良

祐和尚中興し台宗を改めて浄家とと慶長の頃馬喰町馬場の辺小

移され明暦の後今の比よりありあり寺門の内より地藏尊の石像あり

相易一澤本餐彈誓上人の作りてあり山十七世の住侶靈告よりあり

除厄太子堂 同所北の方浄土宗天竺山慈眼院よりありあり徳太子四十

二葉の御時除厄の為自彫刻ありあり靈像ありとあり

明暦回祿の時奉るを失く依住僧徳誓上人深く是を悲を覺し靈告を

萬年山祝言寺 同所南の方通を隔て西南の方よりあり曹洞派の禪宗

しりて良山存久和尚宛山たり往其に戸塚の辺祝言村とつりありて天  
文二十年の頃方内道灌草創と天正の頃山号を賜ひ又此地は遷り

日蓮大菩薩 因所新寺町より平丁となり西南の方より安立山長遠寺

小安置す侍云往古花洛南禅寺の普門禅師より天子を信致し

一朝日輪の中より二菩薩の尊影を拜を依て自業をとく親曼を撰

一奉て靈告より弘長元年辛酉六月逢ふ東より豆列伊

東小より因六日蓮上人の謁彼二尊の慈眼を乞求む則上人は眼

供粮ありて花押を添らる又禅師深上人の徳澤を慕ふなり大士

自肖像を造りて禅師のりとも贈らる 禅師帰寂の後京

師要法寺より又妙榮寺より安置せりなり又文禄三年の

頃當寺より遷り

神岡山幡隨意院 新恩寺より浄家十八檀林の一室より奉

尊阿弥陀如来の安阿弥の像あり 妙龍水 卒堂の在り侍り碑

山幡隨意上人天正十年の秋越後國海田の善導寺より遷り

宛山嶺蓮社智徳上人 幡隨意白導と号す相州藤澤郷善

行寺村の産俗姓の川島氏より天文十一年壬寅十月十九日誕生兒化

る時常に佛像を禮し抄子を教す九歳より父の頃出家せり

ひとりのとも父母是を許を既より十一歳竟小同國玉繩邑二傳寺の範誓

上人に投り落髪授戒し幡隨意と号す爾来所くと経歴し数回の手

序を強宗要の玄微を究む 慶長七年壬寅 洛陽知恩院に任職

す此時紫服を賜り鳳闕に登り浄家の秘蹟を講じ主上大に敬感

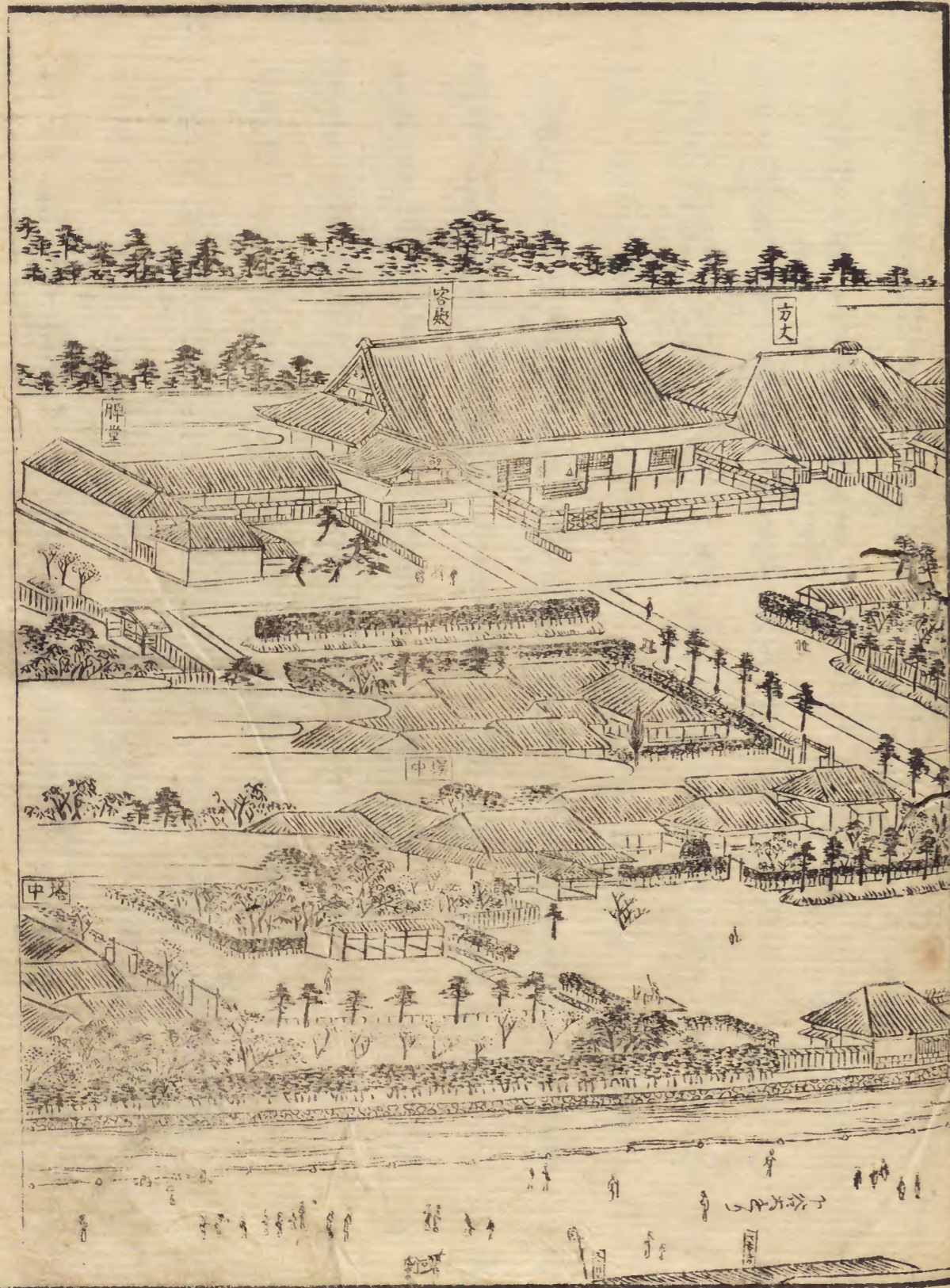
あり因九年甲辰東武の招より再び此比小介向し神田の靈小

地をぬい一宗の林儿刹を闕し神田山新知恩寺と号す

三年庚申 武列熊谷邑小より蓮生法師の遺跡より草庵あり

歳六 十七

廣德寺





そくを轉々精舎と一徳谷寺と号す合命より三金祿の袋袋を  
たすい寺領等を附せらる 同十六年

辛亥歳七十 勢列山田小入門寺を完基を我小同十八年癸巳歳七十二 蠻夷の

凶賊九カ刃小發王邪法を弘め幻術を以て人を惑へ頗爾を傾んとする

の兆ありこれとも是と平治す小丁戈を動す時の國中の人民を塵小する

玉歩り高僧小命一正法と導しめひよる小をひく衆義一交り

幡隨意其器ありとて真心石也 大樹自命とて云く吾軍四

患ある時ハ必佛法の護持よりとす師ハ既天下の法將よりとす邪徒

と退治す此の英雄あり又邪徒小對する軍將の干戈を揮ひ敵陣より小

等一これのとく蜀江の陳羽織及び金の軍配團扇とを賜ひ急に彼地

小赴り凶徒を教化しめ國家の患を除くべきの旨釣命あり一師も辭

すよ語多く命に應へ終り九カ刃小より邪徒と宗義の對論あり一

各道理に歸して凶徒並志をひく一邪法を出る淨土門へ入る實

二師の徳のちのちなるなり一軍配團扇の幡隨意院に藏すそののちまた  
傳羽織は法孫是と付せり 其後又

令命よりりめ一と梵宇を創し一觀音寺と号す有馬氏城前國九洲に秘す  
今之二河山白導寺とあり 其

後崎陽小より大音寺を辨れ竟も晩年よとて紀別和乎山に於て萬

松寺を建立し一と住せり一日微疾を命と上足意天和尚條川靈  
巖の牙

二世のり一と至り師の病床を訪ふ師大に喜ひ傳燈の法またる一と未だ

傳法あり且諸弟に教誡し遂に病床に坐し筆を求め辭世の偈を書

して云く白道運歩數十年以火消火難思術と書畢て筆を擲端坐

合掌して高聲に弥陀のるる号を唱へ眠り如くして化して眠る

和元年乙卯正月十五日歳筭七十四以上行化傳の  
要と攝

信別善光寺燈明 寺所赤城山燈明寺とてる自宗の寺あり乃公の

軍是とて寺内は赤城明神を鎮せり

朝日山永昌寺 願成院と号して下管大通あり淨土宗とて鎮蓮社尊譽上人

を定祖とて奉る阿弥陀如来の運慶の作す觀音の慈惠大師の作とて

世に除厄の寺傳云當寺の天正年間下管長者某其名今  
草創とて之と同所長者

奉る寺也



下ノ宮稲荷明神社



町とつるありと元和の頃今の比より引たりとて明暦二年丙申松浦家の  
母儀永昌院再興ありとあり則境内に長者の墳墓あり

圓満山廣徳寺

同所あり大徳寺派の禪宗より始相小田原

ありとて天正十九年江戸に遷され神田にて比を湯の

其後寛永の未今の比に遷るに元

山を希叟宗平禪師といひ

廣徳寺の禪門の名匠の美事あり是近風火の難をよとてとも恙多最善直の規

下谷稻荷社

廣徳寺の向の側あり故に俗名て廣徳寺の稻荷と称す

是大なる説あり其説を正法院といふ祭神の蒼稻魂命より奉祀十一

面觀世音の行基大士彫刻の靈像ありとて中の鳥井小正一後稻荷大

明神と書る額あり崇保院に寛法親王の真蹟あり拜殿は掲ぐる

同神号の額に蓮花光院道恕の筆ありとて社祭れを隔年二月

十一日執行す下谷の鎮守と稱す

